

芝山町議会・多古町議会連絡協議会

圏央道(木更津東IC～市原南IC間)の建設現場を視察



平成23年11月21日、芝山町議会・多古町議会連絡協議会では圏央道の建設現場を視察しました。アクアラインから東金東JCTまでの開通を平成24年度にひかえ、急ピッチで進む県内最長(2420m)の笠森トンネル(長南町)や養老橋川付近高架橋(写真上)の建設現場などを身近に体感しました。



また、平成23年11月25日には、多古・芝山両町長と共に、地域住民からの意見を取りまとめた「意見書」に「圏央道(大栄・横芝間)の早期着工等に関する決議」を付して国土交通省へ提出し、強く要請しました。(写真下)

本協議会では、圏央道(大栄・横芝間)の早期着工を目指し、2町の議会が連携して要望活動などを行っています。

議会視察研修

徳島県上勝町「いろどり」を視察

平成23年11月9日から11日、町議会で徳島県上勝町ほかを視察研修しました。(写真右)

上勝町は、徳島市から車で1時間、四国山地のなか、多古町の1.5倍の面積(森林が88%)を有し、人口約1,900人、高齢化率50%と四国で最も小さな高齢化の進んだ町です。

この町の(株)「いろどり」に登録し、いきいきと働くお年寄りたちの葉っぱビジネスを視察研修しました。料亭などの料理の「つまもの」となる紅葉や柿葉。様々な季節の葉や花芽を、ITを駆使し、市場のきめ細かな注文を先着受注。即応して出荷し高収益をあげる元気な高齢者の町でした。日々売上データを検索し「働き甲斐が健康の秘訣」というお年寄りたち。県内一低い健康保険利用率も誇りとのこと。野山からの採取に加え、今では季節の葉をハウス栽培し、市場動向をスマートフォンでにらみながら畑作業する新方式を実証実験中とのこと。

高齢者の培った経験や知恵とITを結びつけ、行政



の補助を受けずに、自由に新ビジネスモデルを展開した先駆者、元JA職員の横地さん。その発想と全国を周り市場開拓した行動力と、住民をやる気にさせたパワフルな郷土愛を学びました。

課題は、後継者の育成。今、都会からのIターン者を募り、民泊で葉っぱビジネスを体験学習後、定住を促す制度を始めたとのこと。

少子高齢化が進む中でのふるさと再発見の町おこし。田舎とITの意外な相性の良さを活かしながら、「人のやる気をどう引き出すかが鍵」と、改めて考えさせられた研修となりました。



県道成田小見川鹿島港線整備促進協議会

県と県議会に道路整備促進を要望



県土整備部金谷次長に要望書を提出

平成23年11月4日、※本協議会では、県道成田小見川鹿島港線の整備促進並びに圏央道(大栄～横芝間)及び成田小見川鹿島港線インターチェンジ(仮称)の早期完成と道路整備財源の確保のため、千葉県と千葉県議会へ要望書を提出しました。また、現在計画中の圏央道(大栄～横芝間)は、交通渋滞の緩和と、沿線と都市間の連絡強化及び地域産業の活性化を図るためにも密接に関連しており、早期完成をあわせて要望しました。

※県道成田小見川鹿島港線整備促進協議会…6市町(成田市・富里市・香取市・多古町・東庄町・茨城県神栖市)で構成されています。

成田空港周辺市町議会連絡協議会※

3つの決議書を提出

※4市5町(成田市・富里市・山武市・香取市・多古町・芝山町・神崎町・横芝光町・栄町)で構成

成田空港の機能拡充と地域の均衡ある振興・発展や住民福祉の向上、空港と地域の更なる共生・共栄を目指し、3つの決議文を国土交通省・千葉県・成田国際空港(株)・香取警察署へ提出しました。

- ①完全民営化後の成田国際空港の環境対策・地域共生策の実施に関する決議
- ②成田国際空港の機能拡充に関する決議
- ③過激派暴力集団によるテロ・ゲリラ行為の排除を求める決議



国交省で長田航空局長に決議書を提出

町村議会議長全国大会

震災復興の特別決議案を採択



加瀬議長(写真右)らが出席

平成23年11月16日にNHKホール(東京都渋谷区)で第55回町村議会議長全国大会が開催されました。今大会は、「真の分権型社会の実現を目指して」をメインスローガンに掲げ、全国の町村議会議長など関係者1,700人が出席して行われました。

大会では、町村議会議長の総意を結集し、当面する重要問題の解決を図るため、東日本大震災からの早期復興、町村税財源の充実、社会保障改革、TPP反対などの特別決議案を満場一致で採択しました。

また、大会後には「アジア太平洋時代の日本外交」と題して、元外務事務次官の谷内正太郎氏の特別講演が行われました。